【成果】

国語はすべての領域において全国平均を上回っている。中でも知識・技能では、学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。思考・判断力・表現では、目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけることができている。日頃から行っている繰り返しの漢字小テストや、ICT を使って情報同士を関係づける取り組みが生きていると考えられる。

算数も同様にすべての領域において全国平均を上回っている。中でも図形では、正三角形の意味や性質についてよく理解できている。また、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断しその理由を記述する問題の正答率が高く、全体的に思考・判断・表現の力があることがわかる。日頃から行っているICT 機器を用いて自分の考えを書いたり説明したりする活動が生きているのではないかと考えられる。

【課題】

国語では、全国平均は超えているものの、読む・書く・話す・聞くのいずれにおいても記述の問題の解答に課題が見られた。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、目的に応じて自分の考えをまとめたりする要約の経験を積む必要がある。

算数では、わり算の筆算や百分率で表された割合についての無回答率が全国よりやや高く、理解力に個人差があることがわかった。

【今後に向けて】

国語では、文章や図表の中から必要な情報を見つけて要約する経験を重ね、読む力・書く力の向上を図る。また、自分の考えを事実を基に作られた表やグラフと共にまとめ、表現する経験を重ねる。表やグラフがあることのよさを知ると共に、どのような場面で役立つのか、具体的な例を示すなどの支援を行う。

算数では、今回の結果として自分の考えを書いたり説明したりする力の定着を見取ることができたため、引き続き ICT 機器等を用いて表現したり、他者に伝えたりする活動を続けていく。また、日々の積み重ねが計算の基礎を固めることにつながるため、下の学年から一人ひとりのつまずきに対応した個別の支援が必要になる。練習問題に取り組む時間を十分に作るなど、より深い学習の定着を図っていく。

また、生活意識調査の結果から、自己有用感を高めるために、日々の生活に目標をもつことや、係や当番、行事において役割をもち、自分のできたことを認めたり、感じたりする経験を大切にする。